

(2) 杉並区地域公共交通計画に基づく令和5年度の実施について

(2) 杉並区地域公共交通計画に基づく令和5年度の取組について

松庵小学校でのモビリティ・マネジメントの実施

日時：令和5年10月27日

場所：杉並区立松庵小学校 体育館

内容：「はっけん！すぎまるのひみつ」

- ・すぎ丸の紹介
- ・京王バスによる業務の説明



(2) 杉並区地域公共交通計画に基づく令和5年度の取組について

すぎ丸の日2023～ すぎ丸から考える公共交通のある暮らし～

開催日時：令和5年11月26日（日）午前10時～午後2時

開催場所：京王井の頭線 浜田山駅前

すぎ丸けやき路線 ⑭浜田山駅バス停前

- ・すぎ丸の運行事業者である京王バス、関東バスと共に実施。
- ・700人を超える方にクリアファイルを配布。
- ・アンケートの実施 回答25名（区ホームページに掲載）



(2) 杉並区地域公共交通計画に基づく令和5年度の取組について

すぎ丸の乗降調査の実施

- AI技術を活用したカメラによる乗降調査
調査期間：令和5年11月21日～令和6年1月31日
調査路線：けやき路線
- 調査員による乗降調査
調査期間：令和5年12月17日（休日）
 令和5年12月18日（平日）
調査路線：けやき路線、さくら路線、かえで路線
調査方法：ビンゴカード形式

電気バスの購入

- 令和5年11月10日 契約
- 令和6年2月 納車予定
- 令和6年3月上旬 お披露目式開催予定



(2) 杉並区地域公共交通計画に基づく令和5年度の取組について

グリーンスローモビリティ運行に関する意見募集 集計結果

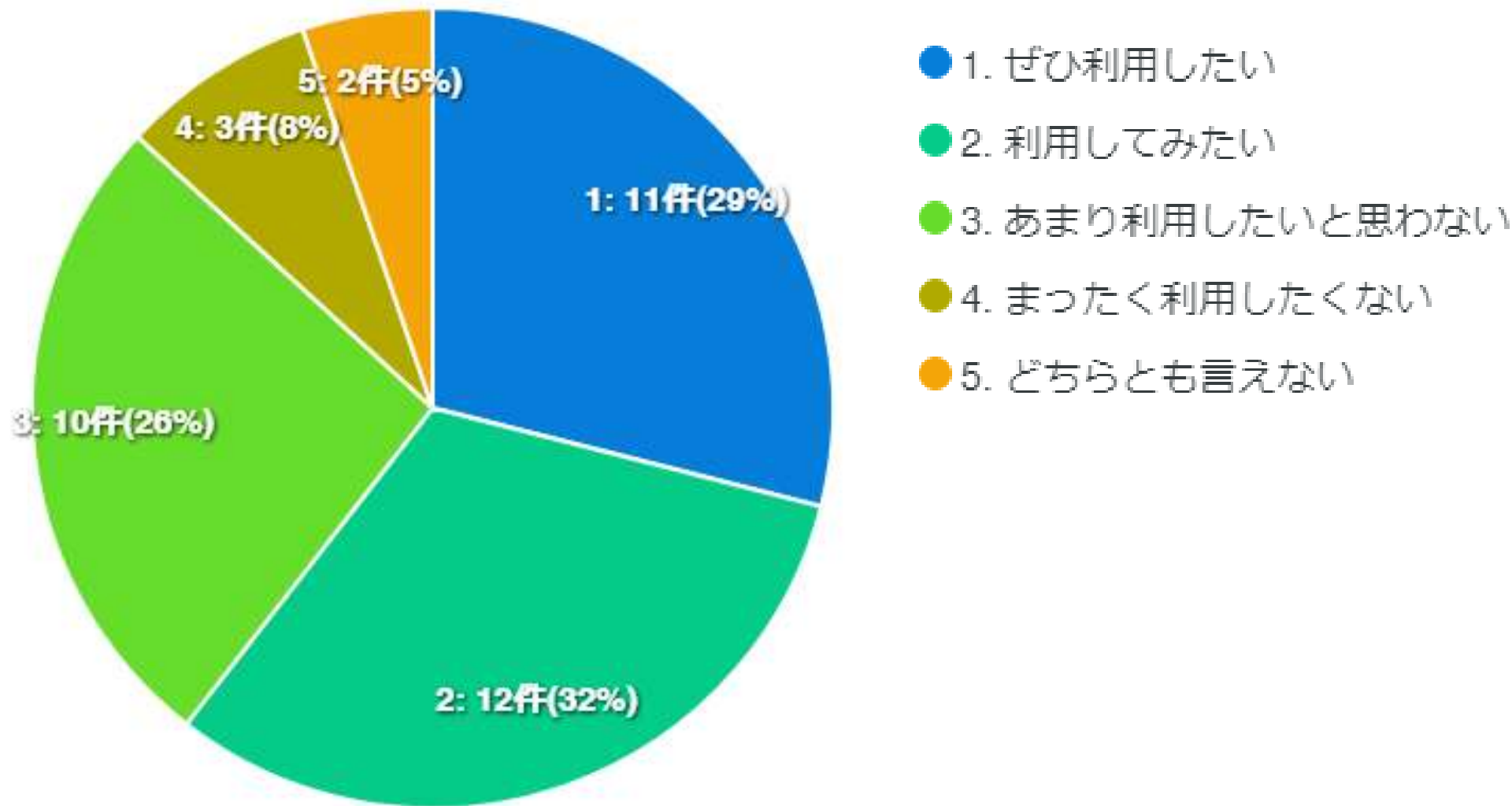
- ・ 期間 : 令和5年12月4日(月)～令和6年1月4日(木) 実施
- ・ 周知方法 : ①区ホームページ(12月4日～)
②町会・商店会への説明(12月上旬順次)
③広報すぎなみ(12月15日号)
④区公式X(旧ツイッター)(12月25日)
- ・ 回答者数 : 38名(LoGoフォームによる回答)

結果については、区ホームページに掲載予定



(2) 杉並区地域公共交通計画に基づく令和5年度の取組について

グリーンスローモビリティを利用したいと思いますか



(2) 杉並区地域公共交通計画に基づく令和5年度の取組について

主なご意見

【ぜひ利用したい・利用してみたい】

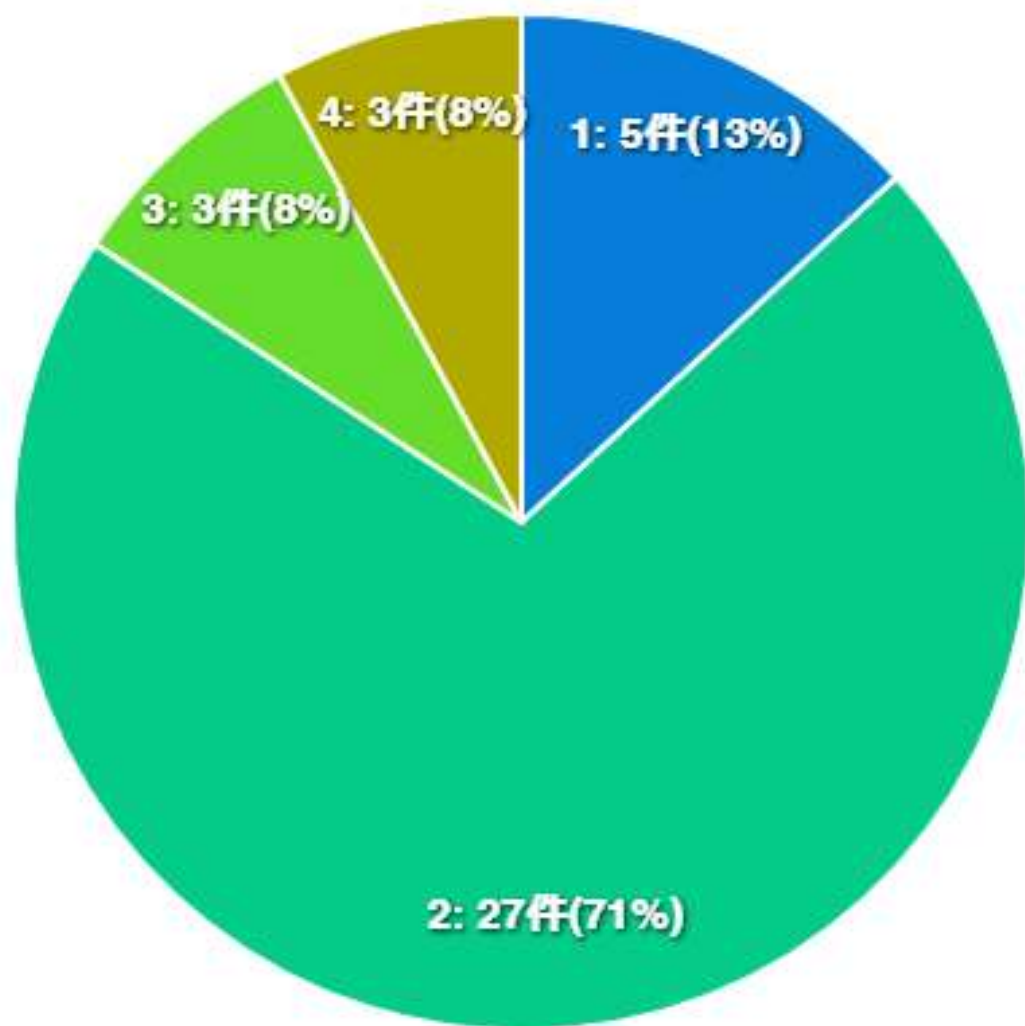
- ・要介護の親と出かける時に利用できるため。
- ・荻窪駅の南側は、遠回りをしなければいけないことが多く、目的地まで行くのに大変不便なため。
- ・まだ各停留所まで歩いていけるが高齢になるとそうはいかなくなるため。
- ・大田黒公園が駅から遠く子供を連れていくのが大変だったため。
- ・乗り合わせた人とのコミュニケーションを楽しめると感じたため。
- ・運転手として興味があるため。
- ・新しいモビリティに乗ってみたいため。
- ・地域を走るルートがあれば便利になるため。

【あまり利用したいと思わない・あまり利用したいと思わない】

- ・駅まで歩いた方が早いため。
- ・混みそうだから。
- ・運行便数や停留所が少ないため。
- ・車両の速度が遅いので生活の中では使わない。
- ・自転車や路線バス等移動手段もあるため。
- ・行きたい場所に止まらないため。

(2) 杉並区地域公共交通計画に基づく令和5年度の取組について

Q7.乗車運賃はいくらなら利用したいと思いますか



- 1. 0円 (無料)
- 2. 100円
- 3. 200円
- 4. その他

【結果】 0円 (無料) : 5件/38件
100円 : 27件/38件
200円 : 3件/38件
その他 : 3件/38件

(2) 杉並区地域公共交通計画に基づく令和5年度の取組について

自動運転委託契約 (R6~7)

受託者: アイサンテクノロジー(株)

国庫補助事業⇒今月契約し、17日に国交省の現地調査済

平成29年度に区と協定を締結
 当時から荻窪地域での実施を想定
 ⇒井草公園周辺でのみ実施

【事業内容】
 将来的にグリーンスローモビリティを自動運転化する際のODD定義の実施において、東京都と共に2030年までのLv4の実装を目指すとともに、3D都市モデル・MaaS・都市OSとの連携やIoT街路灯などの既設インフラ活用を見込んだ、次世代モビリティの新道路空間の検証を行う。

杉並で自動運転の公道実験

区が高精度3次元地図など提供

来年1月 未来の車作りへデータ収集

自動運転の加速や最適、ハンドル操作という基本操作を原則としてシステムに任せる「レベル3」の自動運転実験が来年1月、杉並区内の公道で行われる。レベル3の公道実験は国内で初めて。JR中央線の荻窪駅南側の住宅街で実施し、未来の車作りに必要なデータを集める。杉並区も自動運転のシステム対応に欠かせない高精度の3次元地図や道路設備スペースを提供して支援する。

実験は自動運転技術を開発しているアイサンテクノロジー(名古屋市中区)と東京大学、区内に本社を置く創業会社の第一創業が来月、杉並区と協定を結んで

実験する。区は約1.7キロメートルを道路利用実験してデータの巡回コースを設定し、データを収集する。予定ルートは近接文庫の回廊に約2時間程度の走行。予定ルートは近接文庫の回廊に約2時間程度の走行。

区は、道路だけでなく、路上の信号、標識なども正確に記録した3次元の地図が必要になる。杉並区は土地の所有者や地番、境界を把握する地籍調査のため、平成23年度に高精度の3次元地図を作成。こうした3次元地図を走行している自治体はほとんどないため、アイサン側から協力の申し入れがあったという。

自動運転はドライバーが行っている運転操作を人間に代わってシステムが行う。加速、ハンドル操作などの役割をシステムが行う。レベル3ではドライバーが運転に必要なあらゆる操作をシステムに任せるレベル3までで設定の区分があり、レベル3ではドライバーが必ず運転中に臨んで、緊急時やシステムの要請に応じて対応する。

実験のイメージ

① 3D点群データから高精度地図作成

② シミュレーター上における事故位置推定の正確度調査

③ 自車位置推定調査

動画